



2022年度協約改訂を全組合員で闘おうシリーズ⑮

経営破綻に陥る恐れのある リニア建設は即刻中止を！

鉄道会社の最大の使命は安全です。そしてその安全をいかに担保し健全な経営を進めていくのが最大の課題です。現場で働く労働者が安心して働ける環境、鉄道を利用されるお客様への安全、沿線住民の方たちの理解の上に健全な経営は成立します。

今協約改訂交渉時において、JR東海労は「リニア中央新幹線建設に関して団体交渉もしくは経営協議会で労働組合に説明すること」と要求しましたが、会社は「協約に則り適切に対応する」と回答しました。しかしこの間、JR東海労が申し入れたリニアに関する申し入れについて、会社は無視を続けているのです。

財政投融资から3兆円にも及ぶ借金をし、それを建設資金として、残金は約1.8兆円となりました。会社は、返済計画を明らかにしていません。いや、返済計画は立てられないと言った方が正確かもしれません。7兆円を超える膨大な建設費（品川～名古屋）のうち、あと4兆円の資金調達が必要ですが、その目処は立っていません。会社は、このような状況でも健全経営・安定配当と言っているのです。

また、リニア工事の進捗状況の遅れは静岡工区だけではありません。それでも会社は2027年開業だと言い張るのです。

更に、沿線住民への説明が不十分であったり、トンネル残土処理、生態系・水資源への影響などの問題は何ら解決していません。

JR東海労は、経営破綻の恐れがあるリニア建設を即刻中止するように、今協約改訂交渉をはじめ、あらゆる場で主張していきます。